

令和7年度学校評価最終報告書

学校名（廿日市市立四季が丘中学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒 像)	短期経営目標 (めざす児童生徒 像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標 前年度	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力を育成する。 (主体性と表現力の育成)	◎「子どもが主役」の授業の推進 ○表現力の向上を目指した授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の思考に沿った「生徒が主役」の学習展開 生徒が「まなびたい」「考えたい」と思えるような問いや学習課題の設定 ICTの効果的な活用 「本時の目標に沿った振り返り」による学びの充実 教科の特性を生かした表現の場の設定 生徒の質問力の向上に関わる教師からの働き掛け 	<ul style="list-style-type: none"> 「話し合い活動に進んで参加し、自分の考えを伝えていく」と肯定的に回答する生徒の割合【校区共通】 	90% (87%)	90%	86.8%	96.4%	B	複線型授業を進める中で、話し合いの形も変わっているが、関わり合っただけで授業に取り組んでいる。生徒が主体的に取り組む課題設定が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 教師主導による一斉授業から、ICTを活用した子どもが主役の授業づくりへの転換が進んでいる。継続した取組をしていただきたい。 学校全体で授業の何をどう変えていくのか“質問力”の定義も含めて再度確認するとよいと思う。 年度当初に授業スタイルだけでなく、今年度取り組むことを具体的に教職員がイメージできるように定期的に職員研修等で熟議をするなどの工夫をする。 生徒に委ねる授業を継続し、主体的に学ぶ生徒の育成に努める。 応用問題に取り組むための基礎学力の定着をめざして、繰り返し学習等で図っていく。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 「生徒が主役」の授業実践提案回数 	各教員 2回以上 (-)	1回以上 実施	2回以上 実施	100%	A	1、2学期に各教科で実施することができた。 教科の本質を大切にすることについて研修を実施し、共通理解を図ることができた。		
			<ul style="list-style-type: none"> 「『本時の目標に沿った振り返り』をいつも書かせていく」と肯定的に回答する教職員の割合 	90% (-)	86.7%	85.7%	95.2%	B	授業内にとどまらず、生徒が学びを振り返ることを促していく必要がある。		
			<ul style="list-style-type: none"> 「話し合い活動で、生徒の質問力の向上に関わる働き掛けをいつも行っている」と肯定的に回答する教職員の割合 	90% (-)	80%	64.8%	72.0%	D	前期よりは意識が高まったが、生徒に委ねる授業スタイルと質問力の向上との関わりがあいまいなままだった。 上記、教科の本質のように共通理解が必要だった。		
			<ul style="list-style-type: none"> 学力調査（1月実施）の通過率 	通過率 全国平均 以上	—	0%	0%	D	1、2学年ともに全国平均を下回った。理数教科に特に課題が見られるので、基礎的な計算等定着の取り組みが必要である。		
生徒が自分の良さや可能性を認識し、互いに認め合い、協働しながら課題を解決できる力を育成する。 (協働性と自己有用感の育成)	○自他を認め合い、ともに尊重し合う風土づくり ○集団の中での役割意識の向上、自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活すべてを自分たちで動かす意識の醸成 リーダーを中心とした主体的な活動の実施 生徒同士による相互評価活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分はクラスの人や友達の役に立っている」と肯定的に回答する生徒の割合【校区共通】 	85% (72%)	78.5%	79.2%	93.2%	B	誰かの役に立つ経験を意図的に仕組むことで自己有用感を高めることにつながっている。 各教科の授業においても、振り返りの中に相互評価を取り入れていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流の「縦割り」での取組はとも良いと思う。 自己肯定感や自己有用感、小学校においてもなかなか高めることが難しい。 特別活動や学校行事だけでなく、日々の授業の中で教師から生徒、生徒同士が認めていく場を作っていく必要がある。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する生徒の割合 	85% (82%)	86.1%	87.8%	103.3%	A	学校行事や各学期の振り返りで、お互いを認め合う機会を設ける取組を継続させていく。 教育相談等で教職員から生徒によりよいところを具体的に伝えていく。		
			<ul style="list-style-type: none"> 「先生や友達、私のよいところを認めてくれている」と肯定的に回答する生徒の割合 	85% (82%)	94.5%	92.8%	109.2%	A	学校行事だけでなく、日常生活でも異学年交流を通して自己肯定感につながっている。判断力や相手の気持ちを察する力をさらに高める活動を取り入れ、活性化を図っていく。		

<評価基準> A:十分に達成されている(100%以上) B:概ね達成されている(90%以上100%未満) C:やや不十分である(75%以上90%未満) D:不十分である(75%未満)

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
生徒が自分の 良さや可能性 を認識し、互 いに認め合 い、協働しな がら課題を解 決できる力を 育成する。 (協働性と自 己有用感の育 成)	○ふるさとへ の愛着と誇り の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した未来創造的な学習の実践 生徒が自ら計画し校外に出ていく活動の推進 	・「四季が丘中学校は、地域の方々に支えられている」と回答する生徒の割合	85% (-)	94.5%	95.3%	112.1 %	A	四季中サポート隊や保護者の協力を得て、学校行事や校内の環境整備などで共に活動する機会は、とても有意義である。今後も連携を図りながら、内容を精選し、継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が「四季が丘中学校の生徒でよかった」と心から実感できるよう、目標を高く掲げ、教育活動のさらなる充実を図っていただきたい。 廿日市市に生まれ育った生徒たちが、将来またふるさとに帰って活躍できるように、ふるさと学習を一層推進して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じ、サポート隊をはじめとする地域の方々と連携した活動を継続していく。 家庭との緊密な連携を図り、その中で日ごろの生徒の頑張り等を適宜伝えていく。 学年の発達段階に即した学習活動を体系化し、成果発表の機会を確保する。 デジタル生活ノート等を活用して個々の心情把握に努め、学年全体で情報を共有する。
			・「廿日市市の歴史や文化、観光、産業に関心がある」と肯定的に回答する生徒の割合	70% (-)	72%	71.2%	101.7 %	A	各学年で総合的な学習の時間を中心に、地域を題材とした課題解決学習を取り入れ地域に目を向けさせている。文化祭では、全校生徒に共有できる発表展示した。この内容を、次年度につなげたい。		
			・「四季が丘中学校の生徒でよかったと思う」と肯定的に回答する生徒の割合	90% (90%)	90.5%	94.2%	104.7 %	A	教育相談やデジタル生活ノートの取組を通して、教職員や支援員との円滑なコミュニケーションが図られ、肯定的な評価や安心・安全な環境づくりといった成果につながっていると考えられる。		
			・生徒が自ら計画を立てた校外学習の実施回数	各学年 1回以上	3学 年 虹R	全 学 年	100%	A	3 学年はふるさと再発見学習 (9月)、2 学年は修学旅行での長崎市内自主研修 (11月)、1 学年は宮島校外学習 (11月) 虹ルームは県立図書館見学 (9月) を実施でき、生徒同士で協力して計画を立て活動することができている。		
「働きがい改 革」を進め、地 域と連携・協働 し、教育の質を 高め、信頼され る学校をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○働きがい改 革を推進する。 ○がんばる姿 を積極的に発信する ○「不祥事0」 の風土を醸成 する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務DXのさらなる推進 協働する職場風土づくり (学年担任制の活用) 0JTにより伸びている自分を実感できる環境づくり 学校だより、学年だよりの活用 不祥事防止委員会の機能化と研修の充実 	・「時間外勤務 45 時間超」にならない教職員の割合	75% (71%)	75.8%	75%	100%	A	校務DXの推進等により、時間外勤務の削減につながっていると考える。今後も、さらなる工夫を重ね推進を図っていききたい。	<ul style="list-style-type: none"> 学年担任制の先進校として、市内の学校のモデルとなる取組を推進されており、保護者の理解も得られるようになってきていると思う。 校務DXを進めることは授業でのICT活用を進める上で必要不可欠である。若い世代の感覚や考え方を大切に取り上げ、改善につなげていくことで「働きがい」を創出していただきたい。 教師と保護者の方との関係構築をさらに活性化させていただきたい。 	
			・「四季が丘中学校で学ばせてよかったと思う」と肯定的に回答する保護者の割合	88% (88%)	75.7%	84.4%	95.9%	B	学校だよりや学年だよりの活用に加え、きめ細かな保護者とのやりとりを通して、信頼関係の構築につながっている。		
			・「四季が丘中学校は働きやすい職場だ」と肯定的に回答する教職員の割合	100% (92%)	94.4%	94.4%	94.4%	B	目標の達成には至らなかったものの、概ね働きやすい職場づくりは進んでいる。今後、「不祥事0」の意識や、互いに助け合う風土の醸成を一層推進していく必要がある。		

<評価基準> A:十分に達成されている (100%以上) B:概ね達成されている (90%以上100%未満) C:やや不十分である (75%以上90%未満) D:不十分である (75%未満)